

科目名	国際関係入門							教職	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教員名	相川 泰（専任）								
授業の概要	<p>キーワード： 国際理論、国際関係史、グローバル市民社会</p> <p>地球大の国際関係は、現代においては最大の人間社会であり、そのあり方が直接的に、より小さな社会や個人、さらには地球環境にまで影響を及ぼすようになってきている。本講義では、国際関係の理論（国際理論）、前近代と近代以降の国際関係（20世紀後半以降のグローバル市民社会も含む）の形成と変化の経緯（国際関係史）について学び、最終的にはそのあり方と環境問題の関係にも切り込んでいく。</p>								
到達目標	<p>下記のそれぞれを具体的に説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前近代から近代にかけて国際関係がどのように形成され、変化して、現代に至ったか、その主な経緯と近未来への展望 ・国際関係論の主な理論の名前とイメージ、内容、相互の違い ・国際関係と環境問題の関係や、国内社会と国際社会の関係 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義「国際関係入門」の概要と進め方 2. 国際関係の前近代と近代：日中関係を例として 3. 近現代国際関係を理解するための「ペロポネソス戦争史」「春秋戦国史」 4. 国際関係論の「知の技法」1 5. 国際関係論の「知の技法」2 6. 近代国際関係の成立 7. 近代国際関係の変容と第一次世界大戦 8. 「危機の二十年」 9. 第二次世界大戦から冷戦へ 10. 冷戦からポスト冷戦へ 11. 現在の安全保障問題 12. 国際的相互依存 13. 多元化・重層化する国際関係 14. 国際関係の未来予測 15. 環境問題と国際関係 16. 定期試験 								
評価方法	<p>定期試験のみ（短答式と論述式を併用、前者で60%の得点を必須とする）。ただし、時事動向次第では関連レポートの提出を求める場合がある。その場合、配点は最大20%とする。建設的な質問・提案等をした場合、名前が確認できた場合に限り、1回につき最大10%の加算対象とする。私語が目にする場合、学生証の提示を求めて記録し、1回につき5-10%の減点対象とする。</p>								
講義外での学習	<p>教科書は事前に予告された範囲を読んでおくこと。可能ならば関係する参考文献も相前後して読んでおくことが望ましい（定期試験において、教科書とは別に1冊以上、参考文献を読んでいることを前提とした出題をする場合がある）。国際報道も日々確認せよ。</p>								
履修上の注意事項	<p>本科目は各国事情案内ではない。勝手に誤解し期待して受講後がっかりしないこと。重要な連絡を授業内で行う場合がある。休講・補講など掲示も活用する。本講義の受講にパソコン・携帯電話等は必要ないので、聴覚障害などによる要約筆記の場合を除いて受講生のパソコン等の使用を禁止する。</p> <p>※先修科目： 特にないが、特に17世紀以降の世界史の知識を復習ないし独習しておくことが望ましい。</p>								
教材	<p>◆教科書： ナイ、ウェルチ『国際紛争 理論と歴史[原書第10版]』有斐閣、2017年</p> <p>◆参考書： 岡本隆司『日中関係史（PHP新書1001）』はじめ講義内で随時紹介</p>								